

えにし 縁の瓦の里帰り式

7月11日(火)に、信濃教育会館大講堂で「縁の瓦の里帰り式」が行われ、本校ゆかりの瓦をいただきました。(右上図)



薬師寺三重塔（東塔）

この瓦は奈良の薬師寺の国宝三重塔（東塔）（左上図）の屋根に使われていたもので、平成21年からの解体大修理中に瓦を取り外したところ、そこに長野県の学校名が書かれているものが見つかった中の1枚です。

東塔全体に使われている瓦の総枚数は約33600枚、そのうち名前が書かれていた瓦が約4800枚、さらにそのうち学校名が書かれていたものが359枚あり、そのすべてが長野県



『西塩田中学校』と書かれた瓦

の小中高等学校のものであります。このことから全国で唯一長野県の学校だけが東塔の修理に寄進をしたことがわかります。

信濃教育会で調べたところ、昭和25年に、薬師寺の修理が行われた際、奈良県の国宝を保存する会の人たちが「修学旅行にたくさんきてくれる長野県の学校の生徒の見学態度が大変よく、礼儀も正しい。」「法隆寺の金堂の柱も長野県木曾産の良材による。」「信州の学生さんの文化財への学習熱心さを大切にしたい。」の3つの理由から、全国の中で長野県の学校だけに寄進を依頼したことがわかりました。全国に数ある県の中から、長野県を指名して依頼してくれたことのみならず、その中に私たちの先輩方も寄進をしているという事実。とても誇らしく感じるとともに縁（えにし）を感じます。依頼があった当時は、太平洋戦争後まだ数年しかたっておらず、それぞれが苦しい生活をしている中から生み出した寄進であったようです。趣意書には「貴県のお国の名物であるリンゴ1個に値するご預金を貴県児童生徒にお願いしたい」と書かれていました。大切なお金をみんなで集めて寄進をした様子うかがえます。



『別所中学校』と書かれた瓦

今回の修理で359枚の学校名の入った瓦の内、里帰りをした瓦は125枚。その中に本校塩田中の前身である「西塩田中学校」の瓦が1枚存在したのです。（塩田中は昭和33年に東塩田中・中塩田中・西塩田中・別所中が合併して塩田中となりました）

そして今回里帰りしなかった瓦は234枚。再び薬師寺東塔の屋根の上へのせられることになっています。そして、なんとその中には、やはり塩田中の前身である「別所中学校」の瓦（左下図）も1枚含まれています。次に薬師寺に行ったとき、東塔の屋根の上ののっている瓦の中の1枚に先輩方が寄進した瓦があることを思いながら、ぜひ見学してきてほしいと思います。

縁（えにし）を感じながら・・・。

